

2021年11月1日

プレスリリース



関係各位

2021年11月1日 開局記念式 会長・社長 挨拶

東京メトロポリタンテレビジョン株式会社(TOKYO MX 東京都千代田区)は、11月1日に開局26周年を迎えました。本日の開局記念式で、代表取締役会長・後藤亘、代表取締役社長・伊達寛が、社員に向けてそれぞれ次のように挨拶しました。

なお、式典は新型コロナウイルス感染予防のため、役員と社員表彰の受賞者のみが会場に集い、その他の社員はライブストリーミングによる参加となりました。

【挨拶】後藤 亘 代表取締役会長

「次の時代に向かって、新しいコンテンツの創造を」

当社は開局26周年を迎えました。当社の歴史を振り返ると、1995年の開局は大変な時期でのスタートであり、当社も厳しい状況が続きました。私は1997年に建て直しを依頼され、社長として就任しましたが、MX の存在価値の創造、デジタル化など、様々な課題に直面して参りました。

こうした経験を活かし、周辺のテレビ局と手を取り合い、「関東地区メディア」としての存在価値を高めていくことで、次の30周年、35周年に向かって、次なるメディアの特性を打ち出す時代が来るだろうと思っています。

テレビの全盛期は終わり、ネット時代に入っています。ネットとの関係は、常に新しい試みが続けてきましたが、さらにもう一歩前進し、今の時代にあった仕組み作りを検討しなければいけません。

一方、見た人に感動を与える、大いに笑って喜びを与えるという、テレビが持つ楽しさや感動を届ける力を育て、心に触れるメディアとして成長しない限り、メディアとしての存在理由はないと思います。

今後2025年くらいまでは日本は混乱の時代であると思います。かならずしも「経済」が国を引っ張るのではなく、もっと「文化」に価値を置き、「文化」をビジネスにする時代が来ると考えています。

編成や制作は誇りをもって番組制作に当たり、営業は金額ではなく内容によってビジネスをする。そのような時代に入っていることを考え、30周年に向かってMXの在り方を皆さんと議論しながら進めていきたいと思っています。皆さんと一緒に次の時代に向かって、新しいコンテンツを作っていけるよう、駒を進めていきましょう。

【挨拶】伊達 寛 代表取締役社長

「東京の人々から必要とされるメディアに」

開局26周年おめでとうございます。

これからの30周年に向けての4年間こそが、その後も含めて、東京のテレビ局として地に足を付けるために極めて重要な期間と考えます。

2年間に渡るコロナ禍の中で、我々は様々な厳しい現状認識に直面しました。全世界的に直面している地球環境の課題、世界の中での日本の存在感、若者が抱く将来に対する不安、メディアの中でのテレビの存在感など、こうした時代の中で「東京の人々から必要とされるメディア」になるため、皆さんと本気で考え抜き行動していきましょう。

これは非常に楽しいチャレンジではないかと思えます。過去からの延長線上のビジネスマインドでは、生き残ることはできません。そうした視点と行動は、この1年、社内で多く見られるようになってきたと感じています。

今期、新たに部署の垣根を越えた若手社員公募による「チャレンジ企画」を開始したところ、30件を超える企画提案があり、続々と番組化され、セールスも力強く推進されています。また番組だけに留まらず、動画配信にも積極的に挑戦し、成果を上げています。

『堀潤モーニング FLAG』も社員だけの力で立ち上げて1年、レーティングはまだまだ苦戦中ですが、「時代を捕まえ始めたな」と直感しています。

以前、「己の領域を越えろ」と発言したことがありますが、営業も「待ちから攻め」に変化しつつあると思えます。編成、制作、営業が一体となって、課題解決に向けた企画提案で成功した事例が増えてきたことが証明しています。このような取り組みを一段と加速させる必要があります。

今期の経営状況は昨年のコロナ禍からの回復を果たし、一昨年を越える成果を実現できると確信しています。経費は、MXがさらに成長していくためにも、可能な限り来期に向けた施策に重点的に配分しました。

2025年のMX 開局30周年に向けて、失敗を恐れるのではなく、前向きにわくわくすることを考えて、MXのブランド創造にチャレンジしていきましょう。

以上

本件に関するお問い合わせ
TOKYO MX 編成局 広報宣伝部